

「海星中学校の郷土芸能伝承活動の取組」

～ 長浜地区「出羽踊り」・青瀬地区「青瀬ヤンハ」・鹿島地区「鹿島太鼓」 ～

1 学校名

薩摩川内市立海星中学校

2 学年・人数

長浜地区生徒(8人) 青瀬地区生徒(2人) 鹿島地区生徒(9人) 計19人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和元年9月・10月 海星中・長浜地区コミュニティーセンター等

令和元年9月～11月 青瀬地区・鹿島地区コミュニティーセンター等

(2) 発表の日時・場所

【長浜出羽踊り】

令和元年11月2日(土) 本校文化祭(海星中)

【青瀬ヤンハ】

令和元年11月3日(日) 青瀬神社例祭(青瀬地区)

令和元年11月24日(日) 下甕竜宮文化フェスタ(かのこ幼稚園)

【鹿島太鼓】

令和元年9月8日(日) 敬老会(鹿島コミュニティーセンター)

令和元年11月9日(土) 鹿島小・幼・地域合同文化祭(鹿島小)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 出羽踊り

ア 由来

- ・ 伝わり方等については、文献や古老の口伝えにも残っていない。相当前から島民に親しまれていたようである。古老の話から、藩政時代に7つの村がそれぞれの踊りを地頭屋敷の前庭で役人方に披露し、出来映えによって役人方のおほめの詞を給わると大変な名誉とされたことから、踊りの稽古に相当な日数を費やしたものだっらしい。

イ 構成等

- ・ 踊りは花道から舞台に出る最初のところを「出羽」と称して、舞台上で披露する踊りを「中踊り」、舞台から引き上げるところを「入羽」と名付けられている。

(2) 青瀬ヤンハ(青瀬地区生徒)

ア 由来

- ・ 由来は諸説あり、年代もはっきりしていないが、青瀬郷土芸能保存会長によると、「壇ノ浦の戦いに敗れた平氏の落人が島に流れ着き、考え出したと伝えられている。」ということである。江戸時代には島を治める地頭の来訪に合わせて披露したようである。

イ 構成等

- ・ 太鼓と拍子木に合わせて、刀で切るような扇子の動きに特徴がある。「ヤンハ」という力強いかけ声の一方で、日本舞踊の優雅な動きもある。踊りの「出羽・中踊り・入羽」の3部構成からなる。

(3) 鹿島太鼓 (鹿島地区生徒)

ア 由来

- ・ 昭和55年鹿島村郷土芸能保存会が組織し、新しい郷土芸能として、荒波に雄々しく立ち向かう漁民の姿を太鼓の音に表現した「鹿島太鼓」の創作を行った。その後、婦人会を中心に継承し、鹿島小中(中：現在休校)の児童生徒が練習し、文化祭などで披露してきた。

イ 構成等

- ・ 大太鼓，中太鼓，締太鼓，小太鼓で形成している。また，参加人数によって竹太鼓等でアレンジしている。

5 保存会や地域との連携の具体

伝統芸能の伝承については、各地域の保存会が中心となり、取り組んでいる。そのため、学校は教育活動に位置付けることないが伝承活動を積極的に支援し、本校文化祭や各地域の行事において披露をいただいている。

6 文化財伝承活動の取組の工夫

本校では小中一貫教育において、地域での伝統芸能を小学校5年～中学1年生がその由来や特徴を取材し、3年に一度ではあるが、壁新聞を作成している。そのため、生徒は各地域の伝統芸能に高い関心を持っている。

7 取組の様子



【文化祭(波濤太鼓)】

【敬老会(鹿島太鼓)】

【文化祭(青瀬ヤンハ)】

8 参加児童生徒・保護者・保存会の感想・意見

【生徒】

- ・ 少ない人数で発表できたことは、よい経験になったと思います。練習は忙しい中大変だったけど、文化祭で、保護者や先生方と一緒に出演でき、最高の思い出になりました。

【保護者】

- ・ 19人の生徒で数多くの発表があり、練習をよく頑張ったのだと感心しました。郷土芸能の発表も素晴らしかったと思います。たくましく賢い成長の姿を感じられた。
- ・ テーマ「咲～19の輝く笑顔～」の通り一人で多くの演目をこなし、皆さんの笑顔と練習の成果が全て出ている文化祭。ありがとうございました。

【保存会】

- ・ 少ない人数で発表できたことは、子供達にとってよい経験だったと思います。先生と子供達の関係も、とてもいいことが伝わってきて感動的な文化祭になり、郷土(甌島)を思う気持ちを忘れないで欲しい。